

<p>新しい教育課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己教育力の育成 ○基礎・基本の徹底 ○個性を生かす教育 	<p>本校の教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら学ぶ生徒 (創造・自立) 2. 根気強く努力する生徒 (強い意志) 3. 健康で明るい生徒 (健康・明朗) 4. 礼儀正しく、心豊かな生徒 (礼儀・友愛) 	<p>生徒と地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元の産業が少ない ○通学困難である ○普通科希望が多い ○職業観に乏しい
--	--	---

進路指導の目標

生徒一人一人が、自己の将来の生き方を考え、進路の選択に必要な自己の適性および進路先の情報を理解し、望ましい職業観を形成するとともに、自分の意志と責任において進路を選択・決定し、将来の生活において自己実現を図ることをめざす。

本校の進路指導の目標

- 主体的に進路学習に取り組むことで、将来にわたる「自ら学ぶ」力を養う。
- 体験的な学習によって自己の適性を理解し、望ましい職業観を養う。
- 進路相談をはじめとして、一人一人の個性を生かした進路指導を展開する。
- 計画的・組織的な指導体制により、すべての学校教育活動において進路指導を展開する。

研究主題

「広い視野にたって自己を見つめ、生き方についての自覚を深める進路指導」
——進路相談及び啓発的経験を生かした学級活動を中心として——

研究のねらい

生徒一人一人が、啓発的な体験学習や個々に応じた進路相談を通して自己の特性やそれに適する方向性を見出すとともに、これらの補充・深化・統合の場としての学級活動の授業に主体的に取り組むことによって、広い視野にたって自己とその将来を見つめられる生徒を育成する。

各学年の指導の重点		
1 学 年	2 学 年	3 学 年
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の個性や適性を見つめ、進路にたいする関心を高める。 ○自己の将来に希望を抱かせ、1年生なりに進路計画を持たせる。 ○進路学習のあり方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広い視野にたった将来の見方考え方を養うとともに、職業観・勤労観をも育てる。 ○体験学習により自己の適性を知り、進路選択・設計ができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に進路情報を提供し、主体的な進路意識を育てる。 ○自己の適性を見極め、自分の責任と判断によって進路を選択・決定できる指導を行う。

- 三年間一〇五時間分の題材を配当し、指導案を作成した。大変な労力を要したが、教師が三年間の指導の見通しを持たせ、具体的に内容を把握できた。
 - 授業に対する生徒の意識が高まり、一人一人の所属感、役割意識が高まった。
 - 生徒の活動の評価法、特に情面面での評価については、さらに研究が必要である。
- 体験学習班**
- (1) 研究テーマ
 - **自己を見つめ、将来の生き方を真剣に考える生徒を育成するためには、どのような体験学習を行えばよいか。**
- ③ 実践内容
 - 体験学習の計画立案、実施状況の集約
 - 学校の教育活動において、啓発的経験は欠くことの出来ないものである。本校では、夏季休業中に次の体験学習を実施した。
 - 〈一年生〉……職場訪問
 - 一年次は、「身近に働く人々を訪ねて」のテーマで、家族や近くで働く人に対して、職業に関するインタビューを行う。
 - 二年次は、「職場訪問」として町内十三の事業所をグループごとに訪問し、仕事の内容や働くことの意義などについてインタビューを行う。
 - 〈二年生〉……職場体験
 - 一年次は、「職場訪問」として町内の事業所をグループごとに訪問する。
 - 二年次は、「職場体験」として役場、商工会、農協等の協力を得て、十六の職場で実際に働く機会を持つ。
 - 〈三年生〉……体験入学
 - 全員が自分たちで高校へ行き、体験入学を行う。特に普通科については、地元の高校に協力を依頼する。
 - その他の啓発的経験として、次のことを実施する。
 - 卒業生の体験発表会(全校集会)
 - 高校説明会(二学年)
 - 親子奉仕作業(生徒会、PTA)
 - 資源回収(生徒会)
 - 啓発的経験の授業での活用
 - レポート、壁新聞の作成
 - 発表会、討論会の実施
 - 資料の収集、活用
 - 地域の職場や高校の情報を集め、学級掲示や「進路資料コーナー」を通して生徒に提供していく。